



CLP について 「ロータリーの未来に向かって」(要旨)

2011-2012年度 ガバナー 伊藤 文利

まずは、要覧を是非ともクラブのリーダーの会長には何回も読んでいただきたいです。

その要覧の1ページ目は「ロータリークラブ」です。RIはロータリークラブに対して治外法権です。クラブは独自性をもってあり、何びとたりとも侵すことは出来ないし、それくらいクラブは権威を持っています。

手続要覧の1ページ目にあるのはその「クラブの管理」です。その3ページ目に載っているのが「クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP)」です。

今回はその「クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP)」の話させていただきます。

●創設者ポール・ハリスの名言

2月23日は108回目のロータリー創設記念日である。創設者ポール・ハリスは、いろんな名言を残している。その中で私がもっとも今日の場にふさわしい名言として、この言葉を皆様を紹介したいと思います。

『世界は常に変化している。ロータリーはこの世界と共に変化して成長していかなければならない。ロータリーの物語は幾度も書き換えられなければならない。』

この言葉を心にとめておいていただければ幸いです。

●アメリカ人の考え方や生き方

CLPのお話の前にアメリカ人の考えや生き方を知っていただきたい。

この考え方や生き方を知っておくとRIのやり方が多少でもわかると思う。

米国人の考え方・生き方

- 1: 自主・独立..... 権威に忠誠 (自己責任)
- 2: 合理的..... 因果律 (選択と集中) (結果重視)
- 3: 変化に大胆..... 修正事項速発
- 4: 一神教..... 性悪説 (キリスト教社会) (契約、移香)

●CLPは従来のクラブ運営とどこが違うか?

よく質問をうけるのが、CLPを採用するとロータリーの根幹にかかわる部分がうすいのではないのかということである。声を大にして申し上げたいが、「CLPはあくまでも手段である。目的ではない。」このことを是非知っていただきたい。CLPは決して職業奉仕、社会奉仕を軽んじているのではないということです。

CLPは従来のクラブ運営とどこが違うか

1. 米国流の選択と集中の概念がベース
2. 委員会を絞り、全員参加型を目指す
3. All-aroundな会員をつくる
4. 理論より実践を主とした奉仕活動を目指す
5. クラブ、グループ、地区を超えるネットワーク
6. クラブ、グループ、地区を超えるリーダー
7. 枠組みを変え、合理化、効率性、継続性を
8. 職業・社会奉仕等に関して何ら変わらない

●現在CLPを導入しているグループ

クラブ会員3,141名 67クラブ 平均46名 クラブには独自性があるので、CLPを導入しなければならない訳ではないが、RIから発行される手引きはCLP・DLPに準拠しております。多少余計な勉強が必要になってきます。食わず嫌いにならぬようCLPを活用して欲しい。

当地区グループ別CLP導入の状況

平成23年12月31日現在

地区	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区	金	計
導入済	2	3	3	4	3	0	4	0	2	1	1	23	34
導入済中	2	2	1	0	1	1	1	1	0	0	1	10	15
未導入	4	0	1	1	1	7	1	6	1	3	3	31	31

●CLPとDLP

CLPは管理的枠組みである。そしてDLPは人的組織である。言葉を大にして言いたいことは「地区は



クラブを支援するためにある」ということ。

●効果的なクラブとなる4つの要素

手続要覧の2ページ目トップの「ロータリークラブの管理」いうところに載っています。すなわち理想的なロータリークラブは、この4つの要素が必要だということです。この4つ要素を持つことがクラブの最も理想的な姿である。

効果的なクラブとなる4つの要素

(RIの最重要目標)

1. 会員基盤を維持・拡大する
2. 内外の地域ニーズに応える奉仕プロジェクトを実施・成功させる
3. ロータリー財団を支援する
4. クラブの枠を超えリーダーを育成

●CLPをもつことによる恩恵

RIの出したデータをピックアップしたものであるが、大事なことは「継続性」という言葉。長期計画という言葉を使っていたが、今は戦略計画である。けれども時間的なスパンを示す言葉として「継続」という言葉をよく使うので覚えておいて欲しい。

CLPの恩恵

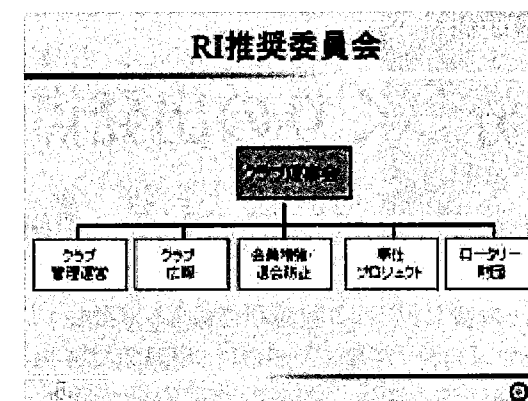
- ・プロジェクトおよび意思決定の継続性
- ・意思決定および目標設定の際の統一見解
- ・奉仕目標を達成するための能力の向上
- ・クラブ指導者が活動できるより広範囲かつ充実した分野
- ・クラブ指導者の引継ぎ計画
- ・クラブ活動における全クラブ会員の参加

●CLPで作る5つの委員会

この5つの委員会の下にいろいろな小委員会をクラブ独自で作って欲しい。

(EX: クラブ広報の中にアワード委員会など)

大事なのは5つの委員会を作ってほしいということです。



●DLPとCLPの関係

地区(DLP)とクラブ(CLP)は、コンセントとソケットの関係である。クラブレベルの委員会と地区レベルの委員会が、コンセントとソケットの位置関係をなさなければならぬ。

森本ガバナー・ノミニーは現在模索中であり、我々は協力しさらなるコンセントとソケットの関係を明確にしていきたいと考えます。それでこそ地区がクラブを支援することになるのです。CLPをいくら作っても、DLPが不完全であればどうにもなりません。今後とも地区を預かるものとしてその部分を考えていかねばなりません。

地区からの支援 (DLP→CLP)

ク ラ ブ	地 区
会員増強委員会	会員増強委員会
クラブ広報委員会	広 報 委 員 会
クラブ管理運営委員会	ガ バ ナ ー 補 佐
奉仕プロジェクト委員会	各種プログラム委員会
ロータリー財団委員会	ロータリー財団委員会

●最後に

ロータリアンの最終目的は、綱領を守りそして奉仕の理念を尽くすことです。

そして、それを実践に結びつけること。「CLP」は魔法でもなんでもなく「単なる道具である」ことを理解してください。

文責 出版委員会 原 浩之